

英國稻門会

Overseas TOUMONKAI

United Kingdom



UK

Webサイト

<https://sites.google.com/a/wasedainuk.com/wasedainuk/>

会長メッセージ

英國稻門会が設立されてから20年以上になる。私が会長をしているのは、日本に帰国することのない(できない)英國国籍所有者だからである。本会が目指すのは、世代、職業、性別の違いを超えて校友の友好を図ることである。それゆえ、どの集まりでも和気あいあいとして騒がしく、楽しい。会員数はバブル時代には300名を超える、現在も活況を呈している。とりわけここ2、3年は、幹事の若返りや新しい企画など活発に活動し、一段と盛り上がってきた。東日本大震災は世界中の日本人にとって、かつて経験したことのない(恐らくは敗戦に次ぐ)大きなショックだった。海外にいる私たちにできることは何かと考えて、まず義援金集めをしてきた。もうすぐ目標額の5000ポンドに達するので、日本協会を通じて被災地に贈りたい。

英國も日本も、いや世界中が大変な不況のなかにある今日は、威勢のいい声や希望の光はどこからも生まれてこない。しかし、それでも私たちは何とか勇気を奮って生きていかなければならない。そして、来年2012年はロンドンオリンピックの年である。本会では、日本代表としてやってくる稻門のオリンピアン、パラリンピアンの手助けをしたいと願っている。

公式行事は大使館やロンドン側に任せて、私たちは個人的に必要な手助け、例えば買物の手伝い、観光の案内などをしたい。競技での勝敗はともかく、オリンピアンたちには精一杯闘うとともにロンドンを楽しんでほしい。そして、そのための手助けをしたいと考えている。

なお、本会には東京支部があり、帰國者の多くが会員になって盛んに活動している。滞英中に結ばれた友情を日本でも立派に継続しているのは嬉しい。

稻門の皆さん、2012年にはロンドンでお会いしましょう!!



シティーオーキングツアー

幹事長メッセージ

“集り散じて人は変われど仰ぐは同じき理想の光”

英國稻門会は基本的には横の繋がりです。ITの発達により情報を一気に伝達できるようになり、組織の「横」化に弾みがつきました。また、若い人を中心に据えて、まとまりのある組織を目指しています。会を通してより密接に繋がり、ロンドンにおける心の支えに貢献して貰うのが、英國稻門会の存在だ。

会の活動には冒頭の案内で紹介したものほか、伝統のゴルフ早慶戦があります。例年10月末に開催され、遠くロンドンにありながら50名あまりもが参加して、真剣勝負を戦いつつ早慶の親睦を深めています。

英國稻門会は近年、交換留学生の増加により、より若手中心の会になってきています。加えて前線で活躍されている駐在員の方々も30代が多くなりました。これを受けて英國稻門会はformalとinformalの両面から、いかにして会を活性化していくかを今後の課題としております。自助・共助・公助のなかで、国でも個人でも埋めることのできない「共助」の場として、自分たちで開拓してゆく精神を養っていきたいものです。



izayoi会

ところで、つい最近私用でケンブリッジ大学を訪れました。折しも創立500周年を迎え、脈々と受け継がれる大学の精神に心を打たれました。わが早稲田大学も「建学の精神」を後世へと受け継いでいくうではありませんか。伝統をさらに高め、若い人の育成に努めるため幹事長を引き受けました。皆さん、早稲田の看板を守りつつもたらわれることなく、世界に羽ばたいてください。戻ってくる“home”として、私はこの英國稻門会にて皆さんをお待ちしております。

脇若英治(1973年商学)

英國
稻門会の
人びと

People

英国
稻門会に
について

About

ロンドンの
魅力

Charm

私は昨年10月からのわずか1年間しかロンドンに滞在していない。日本から遠く離れた異國の地は、文字どおり文化、空気、すべてが「異なる国」であった。故郷でもないそのロンドンが、いつの間にか「帰る」場所になった。その理由として思い浮かぶのは、英國稻門会の存在だ。

会の主な活動は3つある。貸し切りのパブでの「izayoi会」、各種勉強会、そしてスポーツの集いだ。izayoi会は現役学生も含めた世代を超えた飲み会で、隔月で開催している。

ペイント・グラスを片手に夜更けまで語らう、ロンドンらしい集まりだ。各種勉強会では稻門の専門家を招いて知的にロンドンを遊ぶ。例えばシティーオーキングツアーや、日本の金融機関に勤めながらロンドンの歴史を勉強され、公認ガイドの資格をもつ坂次健司氏(1985年政経)が案内人を務める。



スポーツの集い

スポーツの集いは主にフットサルで、日ごろたまつたストレスを解消。今年3月からはサッカー指導者を目指し渡英してきた上山開氏の指導のもと、本格的なフットサルを楽しんでいる。

英國稻門会はすべての稻門の仲間の憩いの場である。

霧の都ロンドン。雨が降り始めたかと思えば晴れ間が差し、日中は暑く朝夕は肌寒い。ロンドンの1日には四季があると呼ばれるゆえんだ。そんなロンドンの魅力は、まずその街並みだろう。

歴史と今が混在しており、荘厳な大聖堂のすぐ隣に、近代的なビルが並ぶ。中心街ウエスト・エンドでも通り1本で街並みが一変する。一見アンバランスなどころに街の頑固さを感じ、積み重ねられた歴史の重みにただただ茫然とする。なかでもお薦めは中心部の美術館、ナショナル・ギャラリーだ。広大な館内には、ゴッホ、セザンヌ、クリムト、ダ・ヴィンチなどの名画が目

白押しである。館内のカフェでは伝統のアフタヌーンティーを楽しむこともできる。また、中央口の眼前にはトラファルガー広場が広がり、その向こうにはロンドンの象徴ビッグベンがそびえ立つ。名画よりも芸術的だとさえ感じる光景だ。

ここロンドンには、まだまだあまたの魅力がある。親切な人柄、ミュージカル、そしてなかには、闊歩する国籍もさまざまな美人を挙げる方もいるかもしれない。何でもいいのだ。ロンドンを自分流に味わい尽くせばそれでいいのだ。

櫻井勇希(2010年商学、
「英國稻門会について」とも)



会員からのメッセージ

あの3月11日の早朝、私はロンドンに飛び立ちました。15年続けたサッカー選手としての現役を引退し、小さいころからの目標である指導者になる第一歩を踏み出しました。一流の指導者になるにはどうしたらいいのか?有名な指導者がいる高校を探し、指導者は教育者でもあるべきだと考え、大学は教育学部に進み、プロ選手になるレベルの人たちから直接学ぶために、ア式蹴球部に在籍しました。

そんな私が海外を意識しないわけにはいきませんでした。サッカーの中心はヨーロッパです。この目で海外の現場を見なければ、日本の問題点も把握できないと考えていました。

ロンドンに来て7カ月。毎日新しい発見の連続で、本当に充実しています。しかし、楽しいことばかりではなく、つらいこともあります。そのときに支えてくれたのが、ロンドン在住の日本人の方々。とりわけ、英國稻門会の方々でした。さまざまな分野でご活躍の先輩方に触れ、いつも新たな知識と活力を得られる貴重な場所です。

留学生活で稻門会の存在は大きく、自分の礎となってくれると確信しています。偉大な先輩方をいつか必ず超える——そういう気持ちを忘れず、胸をはって先輩方に再会できるように頑張りたいと思います。

上山開(教育学部4年)